

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	REVOLT HAVOC	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.470	△RG	0.056	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：REVOLT HAVOC

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番

比較対照ボール：RED REVOLT

フレアーの幅 インチ

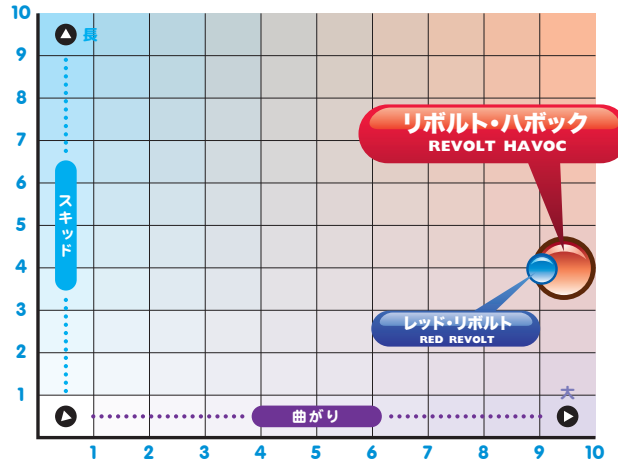
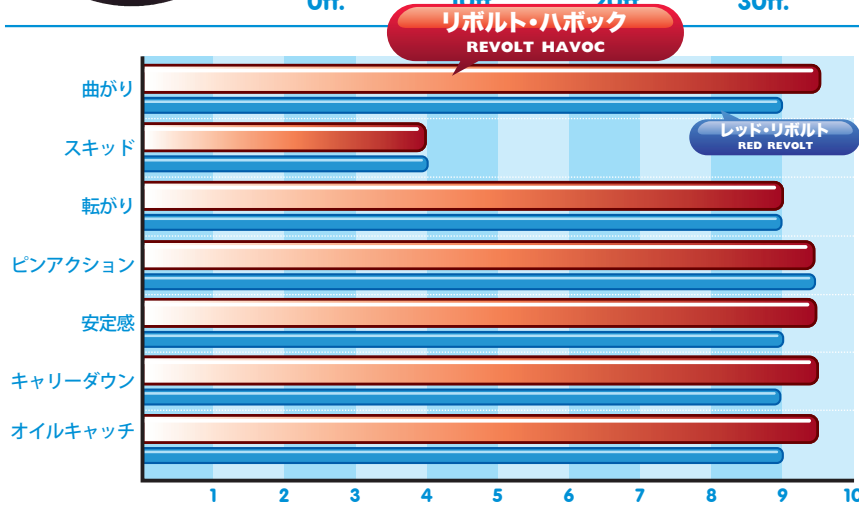
PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

番



ボールの評価

日本で最も販売個数が多いMOTIV社の代表作といえばCovert REVOLT。Turmoil HFS(High Friction Solid) cover stockからHelix HFS Reactiveへと変更され、Boxfinishも4000 Grit LSSから3000 Grit LSSになりました。最も注目すべき点はHelix ReactiveでFORZAで使用されたCover StockのHigh Friction系のSolid Reactiveで構成されたことでしょう。MOTIV社のHF系でも特にSolid Reactiveは9月に発売されたSahhire JACKALもそうでしたが、Solid Reactiveでキャッチを強化させたにも関わらず、Backend motionが緩むどころか強ささえ感じるのはMOTIV社のChemicalの凄さとしが表現できません。それこそが全世界でMOTIVのボールが受け入れられていることでもあり、日本のボウラーでも「曲がる」と感じられる性能だと思えます。

投球した感想は、現在発売されているMOTIV社のボールの中で一番スキッドが短いのですか、REVOLTシリーズ中最もHOOKからROLL部分の強さを感じる性能と読み取りました。特徴的なMid Laneでの強い動き出しがさらに強化されて一つ目の曲りを感じ、そこから最後まで動き続けるという表現よりも衰えるどころか強さを増して感じる第二の曲りとピンヒットの瞬間は、みなさんがご存知の通りのCovert REVOLTそのものの印象であり、まさに「さらなる強さを求めたREVOLT」という進化をこのREVOLT HAVOCで見ることができると感じました。

とにかく曲がる安心感を得られるというか、キャッチと曲りが強化されても最後には「やはりREVOLT!」と感じます。高いレベルに引き上げられたContinuous系の領域では、このHAVOCの右にでるボールはないでしょう。

特記事項

即日完売は必至。MOTIV社でオイリー系の最高傑作とも言えるREVOLT HAVOC。このボールを持たずして、REVOLTは語れません!